

# 青少年赤十字活動紹介

## JRC加盟校紹介 武南高校

武南高等学校のJRC部は、現在2年生4名で活動しています。校内活動は火曜と木曜の週2日。毎年5月の校内献血のお手伝い、9月の文化祭にも参加しています。その他、JRCの特徴である校外活動を積極的に行っている部員たち、それぞれが県や地区の役員です。休日が主な活動日ですから、そのエネルギーには私のほうが驚かされています。2年間の活動を通して、プレゼンテーションの力がついているようです。日常の学校生活だけではできないことだと思うので、これぞJRCの力ではないかと思うと、嬉しくなります。昨年は韓国の学生さんをホームステイさせてくれる部員家族の方がいました。武南高校での授業体験もしていただき、国際交流の一端を経験できました。現在の校内活動は、エコキャップの回収です。送るために仕分けをしなければならないのですが、地味な活

動をコツコツやる姿には、頭が下がる思いです。新入部員を入れたいというのも今の願いです。

手話の披露



老人ホーム訪問



## 滑川町立宮前小学校

# 赤十字の職員を招いて道徳の授業を実施

滑川町立宮前小学校（宮島建夫校長）では、2月22日に6学年を対象とした授業参観（科目：道徳）を実施しました。授業では「世界が100人の村だったら」を抜粋した副読本を用いて、食糧・教育・人口の不均衡等世界の現状について学びました。当日の出席児童とその保護者が100名であったことから、実際にグループ分けをすることで、体で世界の問題について考える機会となりました。最後に昨年（2010年）発災したハイチ大地震の救援活動に従事した日本赤十字社埼玉県支部職員が、小学生・中学生にもできる国際協力について、赤十字が発行しているリーフレットを用いて簡単な講話を行いました。宮前小学校は青少年赤十字（JRC）の態度目標「気づき、考え、実行する」をテーマに6学年の学級運営を行っており、

参加した児童は残り少ない小学校生活で自分にできるボランティア活動は何だろうかと思案を巡らしていました。

小学生にもできる  
国際協力について話す  
赤十字職員



ゲームを通して世界の現状  
を学ぶ児童・保護者

## 越谷市立大袋東小学校

# 小学生がボランティアと一緒に災害食をつくりました

災害食（ハイゼックス）を  
調理する奉仕団員と保護者



茹で上がった  
災害食（ハイゼックス）を  
試食する児童



越谷市立大袋東小学校（武井知英子校長）は、2月17日に全校生徒を対象とした避難訓練・災害食（ハイゼックス）の調理指導を実施しました。この取り組みは毎年この時期に行われているもの。今回の訓練は地元の消防署による消火器の使用方法に関する説明の他、越谷市赤十字奉仕団による災害食（ハイゼックス）の調理指導も行われました。ハイゼックスは特殊に加工された袋で、その中に米と水を入れ、茹でることで米飯となります。最低限の水量で炊きあがるので、非常時に威力を発揮する災害食です。児童は各自でハイゼックスに米を入れ、それを奉仕団員とPTAの職員とで茹でました。炊きあがった災害食はその日の給食の一部となりました。